

横浜の農業を見て、触れて、味わえる さいてん にいぜろいちろく 「横浜農業の彩典 2016」で横浜の農業をPRします

横浜市では、活力ある都市農業を未来につなげていくことを基本理念とした「横浜都市農業推進プラン」に基づいて、様々な農業施策を進めています。推進プランでは、「持続できる都市農業を推進すること」、「市民の皆様が身近に農を感じる場をつくる」ことを柱として掲げ、農業経営の支援、農景観の保全や地産地消の推進等に取り組んでいます。

このたび、JA横浜の主催により、横浜の農業のPRを目的としたイベント「横浜農業の彩典 2016」が開催されます。市内生産者による農畜産物の販売や市内産の牛肉などの試食、花の品評会など、横浜の農業で会場が彩られます。

イベントでは、横浜市も市内産の野菜や花の苗を用いた展示を行い、市民の皆様には横浜の農業の魅力をPRします。

イベントの概要

1 開催日時・会場

平成 28 年 5 月 28 日（土）10:00～17:00／29 日（日）10:00～15:00
グランモール公園・美術の広場（西区みなとみらい）

2 主な実施内容

(1) 展示コーナー

- ①市内産の野菜苗・花苗を用いた「横浜農場」(※)のPR【横浜市実施】
市内生産者が育てた野菜苗と花苗(2,600ポット)を用いて、
横浜の魅力ある農業と農産物を「横浜農場」としてPRします。
- ②花卉品評会、植木庭園、野菜の宝船の展示 等

※横浜農場：意欲的な生産者や多彩な農畜産物、農景観など、身近に魅力ある農が存在する横浜を農場に見立て、「横浜農場」と称して横浜の農業や魅力ある市内産農畜産物をプロモーションします。

(2) 食・販売コーナー

- ①市内産の牛肉・豚肉・鶏肉やじゃがいもの試食
- ②軽トラ市（市内生産者による農畜産物の販売）
- ③市内産のアイスクリーム販売
- ④横浜ゆかりの食品企業（今井かまぼこ、岩井の胡麻油等）の出店 等

(3) ステージ

- ①開会セレモニー（28日（土）10:00～10:15）
主催者挨拶（JA横浜・石川久義 代表理事組合長）、共催者挨拶（林文子 横浜市長）挨拶、開会宣言
- ②地産地消チャンピオン大会（クイズ）、JA横浜組合員による演劇、ミニコンサート 等

3 実施主体

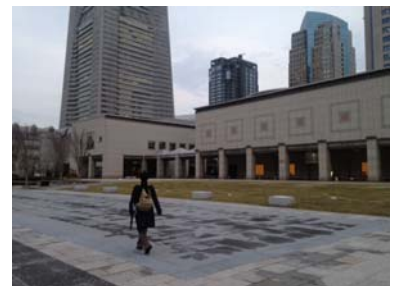
主催：JA横浜 共催：横浜市環境創造局、横浜市園芸協会、JA神奈川県中央会、JA全農かながわ
後援：毎日新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、朝日新聞横浜総局、日本経済新聞社横浜支局、
東京新聞横浜支局、神奈川新聞社、テレビ神奈川、NHK横浜放送局、FMヨコハマ、
一般社団法人横浜みなとみらい21、株式会社サカタのタネ

※当日の内容等は変更になる場合があります。

※取材について：当日の取材に関しては、直接会場にお越しください。

お問い合わせ先

環境創造局農業振興課長 近藤 元子 Tel 045-671-2606

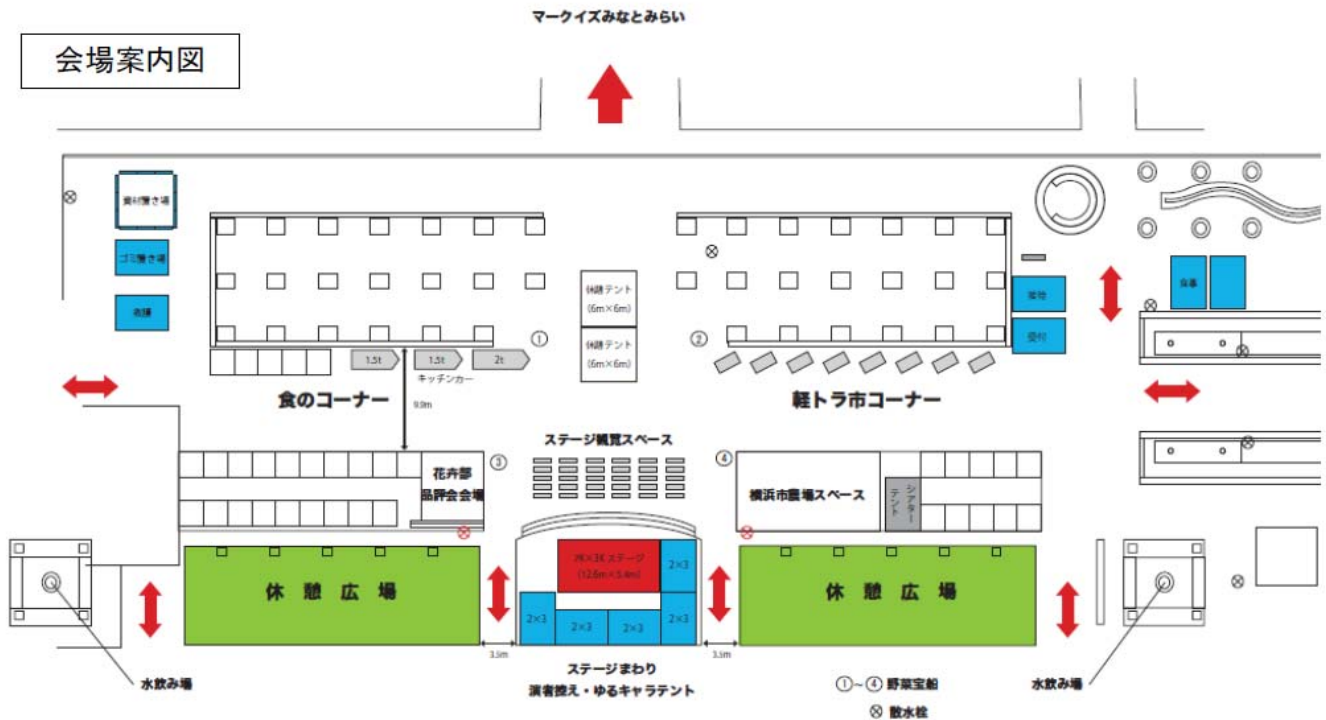


会場（グランモール公園・美術の広場）



前回の様子（横浜赤レンガ倉庫
イベント広場、2012年10月）

【参考1】会場案内図



【参考2】横浜市の都市農業施策（「横浜都市農業推進プラン」）

基本理念：活力ある都市農業を未来へ

— おおむね10年後の展望 —

- 市内の各農業地域の特性を十分に生かし、新たな取組や技術も取り入れた元気な横浜の農業の推進
- 都市の農業を支え、豊かな農景観の形成や生物多様性の保全にも寄与する、まとまりのある優良な農地の形成
- 市民が農に関わる機会の拡充と農のあるまちづくりの推進

農業経営を支援する「持続できる都市農業を推進する取組」と農景観の保全や地産地消など「市民が身近に農を感じる場をつくる取組」を二つの柱として設定

横浜都市農業推進プラン

取組の柱1 持続できる都市農業を推進する

生産環境の整備・改修、農畜産物の品質向上・安定供給などの支援（農業の振興）や、意欲ある農家や新たな農業の担い手が農業経営を継続するための支援（農業の担い手支援）、農業生産の基盤となる農地の利用促進（農地の利用促進）などの取組を推進するとともに、時代の変化に応じた農業を活性化させる新たな取組を進めます。

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組や地産地消、農体験の場の創出など、市民と農との関わりを深める取組を展開します。

※「取組の柱2」は横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26-30年度）として定められています。